琉球大学学術リポジトリ

巻頭言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩俣, 繁久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41048

巻 頭 言

狩俣 繁久（グローバル教育支援機構・開発室長）

グローバル教育支援機構は、2015 年 7 月 1 日に発足し、半年間の助走期間を経て、今年 2016 年 4 月から本格的に始動した。2016 年は、第三期中期目標・中期計画期間のスタートの年でもある。

全国の国立大学でクォーター制導入が進められるなか、琉球大学でもクォーター科目を 2017 年度から開講できるよう基本方針や規程整備などの準備を進めている。クォーター科目は、週 1 コマ 8 週 1 単位、あるいは、週 2 コマ 8 週 2 単位の科目をいい、前学期が第 1 クォーターと第 2 クォーターに、後学期が第 3 クォーターと第 4 クォーターに分かれる。現行のセメスター制の中でセメスター科目とクォーター科目が併存する。短期集中的に実施するクォーター科目の特性を生かした外国語科目や実験科目などの講義の提供を可能にする。4 年間の学部在学期間内もしくは 2 年間の大学院前期課程在学期間内に海外留学、インターンシップ、フィールドワークを含む長期の学外研修等、学生の主体的で能動的な学習をサポートするものである。併せて、学生の学習成果向上を目指し、指導教員の履修指導のもとで学問的関心や成績状況に適した履修選択を可能にする科目履修中止（ウィズドロー）制度を 2017 年度から導入するための準備も進めている。

研究科の枠を越えた共通の課題を検討し、大学院教育を充実させる組織として大学院教育プログラム委員会が今年度中に設置される。高大接続改革に向けた取り組みも始まった。グローバル教育支援機構は、学部入学から大学院修了まで、文字どおり“入口から出口まで”の一貫した教育が行われるよう体制を整えつつある。

大学を取り巻く環境は大きく変わってきた。運営費交付金が縮小され、教育費や研究費の確保が難しくなってきている。競争的な資金を獲得しなければ十分な研究や教育を行えない厳しい現実がある。不断の見直しを行ってきたが、折々に大きな改革が行われてきたのである。

いっぽう、“人をつくる”教育の本質は変わらない。大学は、入学してきた学生が自らに付加価値をつけるための学びの場を提供し、学生の学びを手助けする。目に見えた成果がすぐに得られるわけではないが、“学生ファースト”の大学として学生が自ら学ぶことを後押していかなければならない。